

## コミュニティ福祉学部での学び

伊勢川 真由（コミュニティ政策学科4年）

### はじめに

私は現在、コミュニティ政策学科に所属して4年目になります。今年度で卒業するため、コミュニティ福祉学部の学生として、これまでどのように学んできたか執筆しておきたいと考えました。一学部生の考えなので、学術的で内容の濃いものではありませんが、これから学び始める学部生の方々にとって学びの参考になれば幸いです。

### 1. 授業とゼミナールでの学び

講義では、コミュニティ福祉学部の講義を中心に履修してきました。講義を受けたことで、日本だけではなく世界には、ある文化や宗教を大事にする人、障がい者やLGBTといった多様な人がいること、また人や国によって様々な問題に直面していることを学び、考えることが増えました。さらには、特に人が抱える文化や特徴の違いによる課題の解決には、他者の理解や人とのつながり、すなわちコミュニティが重要な要素の1つであることを学びました。このような学びは、コミュニティ福祉学部だからこそ学ぶ機会が多くあるのではないかと思います。

ゼミナールでは、1年生の基礎演習で東日本大震災復興支援について学び、2、3年生のゼミナールで被災地の廃校活用施設などのフィールド調査を行ったことで、現地に行かなければわからないことがあると感じて、復興支援や留学などの課外活動に積極的に取り組むようになりました。

### 2. 復興支援活動

授業とゼミナールでの学びをきっかけとして、まずはコミュニティ福祉学部が行っている復興支援活動に参加しました。この活動が始まった経緯や詳しい内容について知りたい方は、復興支援室のホームページや、立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援推進室「復興支援ってなんだらう？人とコミュニティによりそった5年間」を読んでみてください。

私は、1年生の夏に初めて福島県のいわき市に足を運び、それから継続して活動に参加してきました。初めての活動では、現地での活動と被災された方々のお

話から、メディアではわからない現地の様子や課題、その方個人の経験に直接触れて、自分が知らないこと、忘れていたことの多さに気づきました。

また、この復興支援活動の特徴として、心の復興に寄与した「交流支援」に特化していることが挙げられます。仮設住宅や公営住宅での交流会や現地の行事等へ参加するというように、住民との交流に重きを置いた「交流プログラム」が実施されています。(立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援推進室、2016) そのため、住民の方々との交流の機会が多く、震災のことをより身近に自分事として考えるようになりました。そのように考えたことで、継続的に活動にも取り組むようになりました。継続していく中で思うことは、何かをしてあげると考えるのではなく、住民の方々の自主性を尊重して、対等な立場で交流することが大切だということです。このような経験や学びは、実際に足を運んだからこそできたことだと思います。

### 3. 語学留学

授業やゼミナール等で学び、復興支援に参加していくうちに日本国内だけではなく海外の文化や課題にも興味を持つようになりました。そこで、大学で英語に関する講義を履修しながら、2年生の冬にシドニー、4年生の夏にバンクーバーに語学留学をしました。両方とも、現地の方々や語学学校で出会った他国の留学生との交流を通して、異なる文化や考え方に触れることができました。ここでは、バンクーバーに行った時に考えたことについて書きます。

バンクーバーは世界でも住みやすい都市の1つとして知られています。しかし、一方で住みやすいとは言えない環境のエリアや、多くのホームレスがいるエリアもあります。ホームレスの問題に関しては、背景として職を失っていたり、薬物中毒であったり様々であることを語学学校で話を聞いたことや、自分の目で毎日多くのホームレスの人を見てきたこともあり、食糧支給や補助金等の支援があるものの、根本的な解決には至っていない深刻な社会問題の1つであると考えようになりました。同時に、留学前に想像していたバンクーバーの異なる一面を見たことで、自分の知らないことや考えなくてはいけない問題が世界にあることを実感しました。

#### おわりに

ここまで、コミュニティ福祉学部の学生として学内の授業やゼミナールと、それとは別の課外活動でどのようなことを学び、考えたかをまとめてきました。「1」でも述べたように、コミュニティ福祉学部ではコミュニティの重要性や人々を取り巻く問題について学び、考える機会が多くあります。そういった学びを深

めるためにも、普段のコミュニティから一歩出て、実際に現地に行って活動してみることも私は大切だと考えます。復興支援や留学をしたことで、様々な人と出会い、貴重な経験ができたからです。

これから学び始める学生みなさんも、興味関心を持ったことを一度は学内にとどまらず積極的に学んでみてはいかがでしょうか。そうした自主的な経験によって、学生生活がより有意義なものになるのではないかと思います。

#### **参考文献**

立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援推進室、2016、「復興支援ってなんだろう？人とコミュニティによりそった5年間」、本の泉社